

# 教研式知能検査の結果をもとに

～気になる子どもや学級の支援について考えよう～

## 【教研式知能検査から支援を探ろう】 ～ 気になるあの子について考えよう ～

### 1 【様式1】「個別集計表」の記入 ～気になるあの子の実態は？～

- (1) 教研式の用語を確認しよう。
- (2) 事例（28 番の児童）の数値を【様式1】に集計していこう。
- (3) 支援案を考えよう。

### 2 【様式2】「学級集計表」 ～学級の支援について考えよう～

- (1) 学級の傾向 → 「Ⅰ学習ペース」「Ⅱ知能のタイプ」「Ⅲ知学相関（知能と学力の相関）」
- (2) 学級の傾向から考える基本的な集団支援
  - ア 学習ペース(知能) のばらつきは必ずある。「学力という船からは誰一人として下ろさない」気持ちで配慮
  - イ 授業では集団支援の工夫を。授業はそもそも言語中心。視覚支援や具体物操作でBタイプに配慮。
  - ウ 集団支援の基本例 ①傾聴態度の確認
    - ②短文話形(1文1動詞)での説明
    - ③復唱要求
    - ④学習動作の確認
    - ⑤授業中断の回避(集中が切れ始めたら立つ活動の投入。協同学習スタイルの導入)
  - エ オバ-は頑張り過ぎ・過剰適応状態。課題量調節や丁寧な賞賛，本人との面談で心理面に配慮。不登校等。
  - オ アンダ-は実力が発揮しづらい状態。認知特性や家庭環境等，本人だけで解決困難な要因もあり。要支援。

### (3) 知的作業（「Ⅳ課題解決スタイル」）から考える基本的な支援

#### ア L5型(慎重・悠長・緩行・準性急・性急)への支援

- ① なぜ遅い？
  - ・ 眼球運動，短期記憶に課題？ 集中できず遅くなる？
  - ・ 手先が不器用で早くできない，遅くなる？
  - ・ 不安が強い，間違えてないかと確認し過ぎて遅くなる？
  - ・ こだわりがあって遅い？ マイルールがあって早くできない？
  - ・ 読み書きに課題があれば，代替機器も検討する？
- ② なぜ不正確？
  - ・ 理解や記憶に課題。(聞くの苦手。難しい。覚えるの苦手。)
  - ・ 集中力に課題。(落ち着きかない。面倒～。ちゃちゃっと済ませたい！ケアレス多し)
  - ・ 短期記憶に課題。(眼球運動，聴覚的短期記憶が苦手)
  - ・ 代替機器の活用で学習に集中できる？ (読み書きに時間を取られない)

#### イ 効率型への支援

- ・ 授業に退屈しがちな“浮きこぼれ”タイプ。発展的課題や複数課題，友達に教える役割を。

## 教研式 新学年別知能検査「サポート」(NRT 関連)用語集

### 1 知能

用語	解 説	参照
ISS	知能偏差値。教研式では「平均=50」に設定。「学習ペース」とも言う。	①A
D.I.Q	知能指数。ISSを「平均=100」に換算した時の知能偏差値。	②II
A式知能	言語(聴覚・抽象)領域の知能。WISCの言語性知能(VIQ)に近い	③I
B式知能	非言語(視覚, 操作, 感覚運動)領域の知能。WISCの動作性知能(PIQ)に近い	

### 2 学習スタイル

学習ペース	知能。ISSをH(HI), M(ミドル), L(Low)の3段階で表記。WISCの全知能(FIQ)に近い。	①C
BSS	学習基礎能力偏差値。学習面に特化した知能。ISSは社会性等も含む全般的知能	②IV
学習適性	A式優位か, B式優位か。両者の差が7以上で優位判定。優位なしは□で表記。	③1,2

### 3 知的機能 <人は5つの思考過程を経て問題解決する。(ギルフォード知能論)>

認知	過程1:「なるほどそういうことね」と聞かれていることを理解する機能(理解力)	①B
記憶力	過程2:「これはこうで, あれはそう」と理解したことを記憶する機能(記憶力)	②I
拡散思考	過程3:「ああでもない, こうでもない」と思考する機能(発想力)	
集中思考	過程4:「それなら答えはこれだ!」と解決する機能(論理的思考力)	
評価	過程5:「ミスはないか」と評価する機能(判断力)	

### 4 創造性 <問題解決における創造性>

流暢性	アイデアの速さ・量の多さ。情報処理の速さ。量的創造性	①B
柔軟性	観点の広がり。多種多様な思考。質的創造性。	②I

### 5 課題解決スタイル <知的作業の速さ・正確さ。9パターン>

効率型	速い×正確:課題が速く終わった時に退屈しないよう次の課題を用意。	②III
迅速型	速い×普通:「スピードよりも正確さを気にして。まだミスは減らせるよ」	③I
性急型	速い×不正確:「あわてんぼうだなあ。ゆっくり確認しながらやろう」	③3
着実型	普通×正確:「正確でミスがないのはいいよね」	
普通型	普通×普通	
準性急型	普通×不正確:「あわてずゆっくりやると, ミスも減るよ」	
慎重型	遅い×正確:「正確にできているから, 安心してスピードを上げてみよう。」	
悠長型	遅い×普通:「スピードを意識してやってみて」	
緩行型	遅い×不正確:「ゆっくりでいいから, まずは正確にやることを目標に」	

### 6 知学相関 <知能と学力の相関>

SS	学力偏差値。実際の学力値。	①C
ES	学力期待値。知能から推測される学力。これくらいはできるはず。	②VII
新成就値	能力の発揮度。新成就値=学力偏差値(SS)-学力期待値(ES)	⑤
成就型	新成就値(能力発揮度)のパターン。以下の3パターン。	学
UA	アンダーアチバー(-8↓):能力の発揮度が低い。まだやれる。原因は怠慢だけでない。	
BA	バランスドアチバー(±7):能力相応に実力発揮。いい感じ。	
OA	オーバーアチバー(+8↑):能力以上に発揮。頑張りすぎ・過剰適応。丁寧な賞賛を。	

【様式1】 教研式新学年別知能検査「サポート」(NRT 相関) 個別集計表

年 組 番	名 前	記入者	記入日
-------	-----	-----	-----

1 基本情報

項目	結果	解 説	参照
ISS		知能偏差値。「平均=50」	①A
D.IQ		知能指数。ISSを「平均=100」に換算した知能偏差値	②II
BSS		学習基礎能力偏差値。学習面に特化した知能。「学習ペース」	③I
A式知能		言語(聴覚・抽象)領域の知能。WISCの言語性知能(VIQ)に近い	
B式知能		非言語(視覚・操作)領域の知能。WISCの動作性知能(PIQ)に近い	
学力SS		国( ) 社( ) 数( ) 理( ) 英( )	学

2 分析

(1) 知能	H(55↑)	70以上なら発展的な学習を好む可能性あり。友達に教える体験も有効
	M	全体として平均的ではあるが、極端な得意・不得意がないか確認
	L(45↓)	30以下なら、具体的・体験的な学習、個別指導が向いている可能性あり

(2) タイプ	Aタイプ	言語優位。聴覚・言語情報を通して学ぶタイプ。素材「意味的」が高め
	Bタイプ	非言語優位。視覚情報(絵図)や操作・体験を通して学ぶタイプ。素材「図形的」が高め
	□タイプ	どちらのタイプに近いか確認

(3) 相関	U(アンダー)	能力の発揮度が低い。認知特性や家庭環境に支援が必要な場合あり。
	O(オーバー)	能力以上に発揮。頑張り過ぎ・過剰適応の心配あり。逆に勉強が楽しいタイプもいる。
	B(バランス)	能力相応に発揮できている。

(4) 知的機能	認知	過程1「なるほど」と課題を理解する機能(理解力)	①
	記憶	過程2「これはこう、あれはそう」と記憶する機能(記憶力)	B
	拡散思考	過程3「ああでもない、こうでもない」と思考する機能(発想力)	②
	集中思考	過程4「それなら答えはこれだ!」と解決する機能(論理的思考力)	I
	評価	過程5「ミスはないか」と評価する機能(判断力)	

(5) 知的作業	効率型(速×正)	「終わったらこれやって」「友達に教えて」等、退屈せぬよう次の課題を	②III
	迅速型(速×普)	「スピードよりも正確さを。ミスは減らせるよ」	③I
	性急型(速×不)	「あわてずゆっくり。見直し大事。確認大事」(ケルミス多し。不注意傾向)	③3
	着実型(普×正)	「ミスピードを意識してやってみよう」	
	普通型(普×普)		
	準性急型(普×不)	「あわてずゆっくりやると、ミスも減るよ」(やや不注意傾向)	
	慎重型(遅×正)	「できているよ。安心してスピードアップ」(こだわり故に遅い?LD傾向?)	
	悠長型(遅×普)	「速さを意識してやってみて」(眼球運動、集中力に課題あり?)	
緩行型(遅×不)	「まずは正確にやることを目標に」(理解が追いつかずミスになる?)		

所見	
----	--

【様式2】 教研式 新学年別知能検査「サポート」(NRT 相関) 学級集計表 (2年3組)

I 学習ペース		II 知能タイプ (参照③)			III 知学相関 (参照⑤)	
(学級 I S S) 57.0 (参照①D)		A (言語・聴覚)	□ (バランス)	B (感覚・視覚)		
H (高) 55 ↑	60% (全国 31%)	20 % (全国 16%)	60 % (全国 68%)	20 % (全国 16%)	O (オーバー)	12%
M (中) 45 ~ 54	32% (全国 38%)				B (バランス)	76%
L (低) 44 ↓	8% (全国 31%)				U (アンダー)	12%

- (1) 学習ペース(知能)のばらつきは必ずある。「学力という船からは誰一人として下ろさない」気持ちで配慮。  
 (2) 授業では集団支援の工夫を。授業はそもそも言語中心。視覚支援や具体物操作でBタイプに配慮。  
 (3) 集団支援の基本例 ①傾聴態度の確認 ②短文(1文1動詞)話形での説明 ③復唱要求 ④学習動作の確認  
 ⑤個別注意による授業中断の回避(集中が切れ始めたら立つ活動の投入。協同学習スタイルの導入)  
 (4) O(オーバー)は頑張り過ぎ・過剰適応状態。課題量調節や丁寧な賞賛, 本人との面談で心理面に配慮。不登校等。  
 (5) U(アンダー)は実力が発揮しづらい状態。認知特性や家庭環境等, 本人だけで解決困難な要因もあり。要支援。

IV 課題解決スタイル (参照③) ※L5型 (慎重・悠長・緩行・準性急・性急) に配慮

	遅い	普通	速い
正 確	【慎重型】遅い×正確 30 ハ・ア (M・□・O・慎) ↑ ↑ ↑ ↑ I II III IV ペ タ 知 ス   イ 学 タ ス プ 相 イ	【着実型】速度普通×正確 6 サ・ア (H・A・O・着) 8 ナ・ア (H・B・B・着) 26 ツ・ア (H・A・B・着) 2 イ・ア (M・B・B・着)	【効率型】速い×正確 11 マ・ア (H・□・B・効) 29 ニ・ア (H・□・B・効) 3 カ・ア (H・B・O・効) 22 イ・ア (H・□・B・効) 25 ス・ア (H・□・B・効) 27 ナ・ア (H・B・U・効) 32 ミ・ア (H・□・B・効) 24 コ・ア (H・□・B・効)
	「できているよ。安心してスピードアップしよう」	「速さを意識してやってみよう」	終わったらこれやって」「友達に教えて当、」次の課題を(二段指示)
	【悠長型】遅い×正確さ普通 33 ユ・ア (L・□・B・悠)	【普通型】普通×普通 10 ナ・ア (H・□・B・普) 31 ホ・ア (M・B・B・普) 9 ナ・ア (M・□・U・普) 5 コ・ア (M・A・B・普)	【迅速型】速い×正確さ普通 1 イ・ア (H・A・B・迅) 4 カ・ア (H・A・B・迅) 23 キ・ア (H・□・U・迅) 21 イ・ア (M・□・B・迅)
普通	「もう少しスピードをあげても大丈夫」		「速さは気にせず、ミスをしないうちに集中しよう」
不 正 確	【緩行型】遅い×不正確	【準性急型】速度普通×不正確	【性急型】速い×不正確 7 タ・ア (M・□・B・性) 12 ヤ・ア (M・□・B・性) 28 ナ・ア (L・□・B・性)
	「まずは正確にやることを目標に。」	「あわてずゆっくりやると、ミスも減るよ」	「あわてずゆっくり。見直し大事。確認大事」

- (1) 知的作業(集中力, 板書, 音読等の学習動作)の速度や正確さに課題がある“L5型”は, 聴覚的・視覚的短期(作動)記憶, 眼球運動, 手先の器用さに課題がある場合が多い。  
 (2) 体幹バランス, 立つ・歩く・蹴る・揺れる・止まる等の基本的な身体運動(感覚統合), 手指運動やビジョントレーニングなどが有効なこともある。これらのトレーニングはクラス全体でできるものもある。朝の会等で継続的にできれば, 学級全体の知的作業のレベルアップにつながることも。  
 (3) 特に読み書きに課題がある場合は代替手段の活用も検討していく。①板書量調整(ワークシート, 最低限の板書箇所を色チョークで囲む) ②機器活用(読み上げ, 板書撮影, 音声入力, タブレット入力)等の支援により, 読み書きの負担を減らし学習への集中と理解を促す。

【様式1】 教研式新学年別知能検査「サポート」(NRT 相関) 個別集計表

年 組 28 番	名 前	記入者	記入日
----------	-----	-----	-----

1 基本情報

項目	結果	解 説	参照
ISS	34	知能偏差値。「平均=50」	①A
D.IQ	74	知能指数。ISSを「平均=100」に換算した知能偏差値	②II
BSS	36	学習基礎能力偏差値。学習面に特化した知能。「学習ペース」	③I
A式知能	36	言語(聴覚・抽象)領域の知能。WISCの言語性知能(VIQ)に近い	
B式知能	36	非言語(視覚・操作)領域の知能。WISCの動作性知能(PIQ)に近い	
学力SS	34	国(33) 社(33) 数(37) 理(33) 英( )	学

2 分析

(1) 知 能		H(55↑)	70以上なら発展的な学習を好む可能性あり。友達に教える体験も有効
		M	全体として平均的ではあるが、極端な得意・不得意がないか確認
	✓	L(45↓)	30以下なら、具体的・体験的な学習、個別指導が向いている可能性あり

(2) タイ プ		Aタイプ	言語優位。聴覚・言語情報を通して学ぶタイプ。素材「意味的」が高め
		Bタイプ	非言語優位。視覚情報(絵図)や操作・体験を通して学ぶタイプ。素材「図形的」が高め
	✓	□タイプ	どちらのタイプに近いか確認

(3) 相 関		U(アンダー)	能力の発揮度が低い。認知特性や家庭環境に支援が必要な場合あり。
		O(オーバー)	能力以上に発揮。頑張り過ぎ・過剰適応の心配あり。逆に勉強が楽しいタイプもいる。
	✓	B(バランス)	能力相応に発揮できている。

(4) 知的 機能	2	認知	過程1「なるほど」と課題を理解する機能(理解力)	①
	2	記憶	過程2「これはこう、あれはそう」と記憶する機能(記憶力)	B
	3	拡散思考	過程3「ああでもない、こうでもない」と思考する機能(発想力)	②
	2	集中思考	過程4「それなら答えはこれだ!」と解決する機能(論理的思考力)	I
	1	評価	過程5「ミスはないか」と評価する機能(判断力)	

(5) 知的 作業		効率型(速×正)	「終わったらこれやって」「友達に教えて」等、退屈せぬよう次の課題を	②III
		迅速型(速×普)	「スピードよりも正確さを。ミスは減らせるよ」	③I
	✓	性急型(速×不)	「あわてずゆっくり。見直し大事。確認大事」(ケルミス多し。不注意傾向)	③3
		着実型(普×正)	「ミスピードを意識してやってみよう」	
		普通型(普×普)		
		準性急型(普×不)	「あわてずゆっくりやると、ミスも減るよ」(やや不注意傾向)	
		慎重型(遅×正)	「できているよ。安心してスピードアップ」(こだわり故に遅い?LD傾向?)	
		悠長型(遅×普)	「速さを意識してやってみて」(眼球運動、集中力に課題あり?)	
	緩行型(遅×不)	「まずは正確にやることを目標に」(理解が追いつかずミスになる?)		

所見	<p>○学習ペースL・バランス型(言葉を用いた課題・具体物によって提示された課題 いずれも○)</p> <p>○拡散思考: 条件・情報を提示して問題を解決する方法や創造的な見方・考え方を提示させる方法</p> <p>○性急型: 速いが、うっかりミスが多い。速いという長所を認めながら、間違いがないかを確認、よく見直したり考えなおしたりする習慣を養う。</p>
----	---

